論理と思考	講義　2単位　2学期
Logic and Thought	

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学・経営情報棟504

【授業目的及び達成目標】

アリストテレス以来の伝統的論理学と新たな形式論理学としての記号論理学を概説しつつ、「正しい思考」の学としての論理学の基本的な構造を探り、論理学の哲学的基礎づけを検討する。

【授業キーワード】

論理、思考、概念、判断、推理

【授業内容及び授業方法】

講述形式に加えて演習形式も大幅に取り入れる。

【授業項目】

1. 伝統的形式論理学
2. 思考の基本法則
3. 形式論理学の三理論
4. 演繹と帰納
5. 記号論理学
6. 命題計算
7. 哲学的論理学
8. その他

【教科書】

「論理学叙説」谷口龍男著（北樹出版）。参考文献は講義時間に指摘する。適宜プリントを使用。

【参考書】

「基礎論理学」永井成男著（早稲田大学出版部）

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験（80%）
平常点・レポート（20%）

日本の思想形成	講義　2単位　1学期
Japanese Philosophical Development	

【担当教員】

若林 敦

【教員室または連絡先】

化学･経営情報1号棟 502

【授業目的及び達成目標】

平成14年度は開講せず。

東洋社会文化史	講義　2単位　2学期
Society and Culture History of the East	

【担当教員】

関尾 史郎

【教員室または連絡先】

Email: ssekio@human.niigata-u.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

私たちもその一員であるアジアについて，私たち自身に対する認識を深めるために，その特質を歴史的な視点から考える時間です。とくに中国を中心とした東アジアについて，その特質を考えると同時に，現在の国際交流の問題点を確認することを目標におきます。

【授業キーワード】

アジア，東洋，歴史世界，東アジア，文化の社会的背景

【授業内容及び授業方法】

口述と板書を基礎にしながら進めます。また理解の一助として，東アジアの映画なども鑑賞します。授業中にアンケートを実施することも予定。

【授業項目】

1. アジアの範囲と特質
2. 概念としての「アジア」
3. 概念としての「東洋」
4. アジアの歴史世界
5. 東アジア世界の範囲と特質
6. 南アジア世界の範囲と特質
7. 西アジア世界の範囲と特質
8. 内陸アジア世界の範囲と特質
9. アジアと世界史
10. 試験

【教科書】

教科書は指定しません。

【参考書】

項目5については，李成市『東アジア文化圏の形成』，6については桃木至朗『歴史世界としての東南アジア』，8については梅村坦『内陸アジア世界史の展開』(いずれも山川出版社の世界史リブレットのシリーズ)を参考文献として薦めます。

【成績の評価方法と評価項目】

試験は，ノートと授業中に配布したプリントのみ持込可で，論述問題を中心とします。講義の内容を理解することが必須の条件ですが、それにとどまらず自分の考えを明確に述べられるように努力して下さい。

【留意事項】

とくにありません。

科学と西洋現代思想　　講義　2単位　1学期
Science and Modern Western Thought

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学・経営情報棟504

【授業目的及び達成目標】

近代以降の科学の進歩が、人類の発展、人間の生活に対してどのような役割を果たし、またいかなる影響を及ぼしてきたかを歴史的に考察しつつ、西洋現代思想における科学の位置づけを明らかにする。併せて、現代における科学者・技術者としての在り方を探求する。

【授業キーワード】

科学、技術、西洋思想、技術社会、哲学、倫理、

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とし、随時レポートを課す。

【授業項目】

1. 科学の起源と展開
2. 科学と技術思想
3. 科学と人間社会
4. 科学思想と哲学
5. 近代の科学と思想
6. 現代の科学と人間
7. 科学・技術と哲学・倫理
8. 技術者と倫理
9. その他

【教科書】

未定
参考文献は適宜紹介する。適宜プリントを使用する。

【参考書】

「現代思想のトポロジー」里見軍之編(法律文化社)

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験(80%)
平常点、レポート(20%)

日本語作文技術I　　講義　2単位　1学期
Japanese Technical Writting 1

【担当教員】

若林 敦

【教員室または連絡先】

化学・経営情報1号棟 502

【授業目的及び達成目標】

レポート(調査・研究などの報告書)・論文を作成するのに必要な日本語の作文技術を習得する。レポート・論文の作成ステップは一般に(1)テーマを決め、材料(データ)を集め、考察する、(2)文章(文書)の構成を考える、(3)執筆し、仕上げるの三段階に分けて考えることができる。この授業ではそのうちの(3)に必要な言語技術を習得し、併せて(1)(2)の基礎能力を身につける。

【授業キーワード】

テクニカル・ライティング、事実と意見、正確な文

【授業内容及び授業方法】

『理工系の日本語作文トレーニング』をテキストにして講義を行う。必要に応じてプリントを配付する。学期中にミニ作文(宿題)を何度か課し、文章を書く練習をする。また、3～4回の実力試験を行い、それまでの学習内容の理解を確かめる。

【授業項目】

0.はじめに－この授業の目的、内容、意義－(1回)
1.事実と意見
1.1　事実と意見を区別する(4回)
　事実と「事実の記述」、意見と「意見の記述」(推論・予測、評価、(狭義)意見、確信)、事実と意見を区別する形式
1.2　事実と意見を書き分ける(6回)
　事実の記述法(引用の記述、受身形の使い方、判断の記述)、意見の記述法(レポート・論文における推論・予測の記述、レポート・論文における評価の記述、断定保留の条件、受身形の使い方、推論・予測を事実の記述の形にしない)
2.わかりやすく簡潔な表現
2.1　文の3原則(Correct Clear Concise)
2.1.1　正確な文(Correct)(3回)
　主語・述語を欠かさない、「格」を整える

【教科書】

若林敦『理工系の日本語作文トレーニング』(朝倉書店　2000.6)

【参考書】

木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書　1981.9)

【成績の評価方法と評価項目】

1.評価方法
　実力試験とミニ作文による。成績評価の割合は各50%。
2.評価項目
1)事実と意見を区別することができる。
2)事実と意見を書き分けることができる。
3)事実と意見を組み合わせて、説得力のある文章を書くことができる。
4)正確な文を書くことができる。

【留意事項】

1.この授業は2学期の「日本語作文技術II」に続くので、受講者は、それも併せて履修することが望ましい。
2.受講人数は200名以内に制限する。履修希望者がこの人数を超えた場合は、若林の行う履修希望調査に基づき、1.1,2年生を除く、2.再履修者を除く、3.抽選を行うの順で人数を絞る。
3.実力試験では、持ち込みは一切認めない。
4.ミニ作文はその都度合否判定を行う。不合格者は一度だけ書き直し・再提出をすることができる。

日本語作文技術II　　講義　2単位　2学期
Japanese Technical Writting 2

【担当教員】

若林 敦

【教員室または連絡先】

化学・経営情報1号棟 502

【授業目的及び達成目標】

レポート(調査・研究などの報告書)・論文を作成するのに必要な日本語の作文技術を習得する。レポート・論文の作成ステップは一般に(1)テーマを決め、材料(データ)を集め、考察する、(2)文章(文書)の構成を考える、(3)執筆し、仕上げるの三段階に分けて考えることができる。この授業ではそのうちの(3)に必要な言語技術を習得し、(2)に必要な考え方と技法を学ぶ。併せて、(1)の基礎能力を身につける。

【授業キーワード】

テクニカル・ライティング、明快な文、簡潔な文、文の接続、文章構成法、重点先行主義、パラグラフ、アウトライン、序論・本論・結び、概要

【授業内容及び授業方法】

『理工系の日本語作文トレーニング』をテキストにして講義を行う。必要に応じてプリントを配付する。授業項目の「3.文章構成法」の部分はテキストに含まれていないので、テキストをプリントとして新たに配付する。学期中に課題作文(宿題)を2度課し、(1) ～(3) のステップを踏んで文章を書く練習をする。また、3～4回の実力試験を行い、それまでの学習内容の理解を確かめる。

【授業項目】

2.わかりやすく簡潔な表現
2.1　文の3原則(Correct Clear Concise)〈承前〉
2.1.2　明快な文(Clear)(3回)
　主・述関係、格関係、修飾・被修飾関係の明確化、修飾語や格の位置・語順、読点(、)の打ち方、〈逆茂木型〉の文を避ける
2.1.3　簡潔な文(Concise)(1回)
　〈一文一内容〉、接続助詞の「が」に注意する
2.2　文と文とのつなぎ方(3回)
　文の接続の必要性、文の接続の方法(接続語句の使い方、指示語句の使い方、〈つなぎ言葉〉を使わない接続)
3.文章構成法
3.1　重点先行主義(1回)
　重点先行主義の考え方、重点先行主義の利点、重点先行主義の実際
3.2　パラグラフ(2回)
　段落とパラグラフ、パラグラフの内部構造
3.3　アウトライン(1回)
　文章の組み立て、アウトラインの作り方、パラグラフの配列
3.4　研究論文・研究報告の標準的な構成(3回)
　序論・本論・結び、概要、序論と概要の書き方、本論と結びの書き方

【教科書】

若林敦『理工系の日本語作文トレーニング』(朝倉書店　2000.6)

【参考書】

木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書　1981.9)

【成績の評価方法と評価項目】

1.評価方法
　実力試験と課題作文による。成績評価の割合は各50%。
2.評価項目
1)明快な文、簡潔な文を書くことができる。
2)文と文とを正しくつなぐことができる。
3)重点先行で書くことができる。
4)アウトラインに基づき、パラグラフを単位として、説得力のある文章を書くことができる。
5)序論、本論、結び、概要の書き方を理解している。

【留意事項】

1.この授業は1学期の「日本語作文技術I」の続きなので、受講者は、それも併せて履修しておくことが望ましい。
2.受講人数は200名以内に制限する。履修希望者がこの人数を超えた場合は、若林の行う履修希望調査に基づき、1.1,2年生を除く、2.再履修者を除く、3.抽選を行うの順で人数を絞る。
3.実力試験では、持ち込みは一切認めない。
4.課題作文はその都度合否判定を行う。不合格者は一度だけ書き直し・再提出をすることができる。

ライフサイエンス　講義　2単位　1学期
Life Science

【担当教員】

三宅 仁

【教員室または連絡先】

体育・保健センター センター長室(9822)
miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的:人間の生存に基本的にかかわりのある医学と工学の境界領域を実学的立場から解説を加える。
達成目標:生物学の初歩から遺伝子工学、医用工学などまでの最先端の知識を通し、工学者として生体をいかに見るべきかの素養を身につけることを目標とする。

【授業キーワード】

cell, organella, protein, enzyme, DNA, aging, homeostasis, immune, biomechanics, medical engineering, life style

【授業内容及び授業方法】

授業内容:生物学の基本、細胞生物学、人間生物学、工学的応用、生命倫理、医学・保健学
授業方法:講義を中心とする。中間にレポート提出。

【授業項目】

Introduction
§1 Cell Biology
(1) Cell
(2) Metabolism energy enzyme
(3) DNA 分裂・分化 DNA・遺伝子工学
§2 Human Biology
(1) 疾病と人間 異常と正常 性と生殖
(2) 老化・加齢・癌
(3) Homeosatasis
(4) 免疫とAIDS
§3 Life Technology
(1) Biomechanics
(2) 医用工学
以上各1～2回

【教科書】

別途指示する。

【参考書】

別途指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

評価方法:レポート(30%)＋試験(70%)(レポートのテーマは別途指示する。)
評価項目:知識(50%)＋理解度(30%)＋応用力(20%)

【留意事項】

関連科目　2学期「人間と環境」

【参照ホームページアドレス】

http://www.melabq.nagaokaut.ac.jp/lec/
体育・保健センター/講義用HP

人間と環境　　講義　2単位　2学期
Human Environment

【担当教員】

三宅 仁

【教員室または連絡先】

体育・保健センター センター長室(9822)
miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

授業目的:人間と機械のかかわりあいは、広い意味で人間と環境とのかかわりの問題である。ライフサイエンスの知識に基づく人間機能の解析と環境問題全般についての知識を理解できることを目的とする。
達成目標:人間－環境系の問題をどのように捉えるかを、衣・食・住などの身近な話題から理解できることを目標とする。

【授業キーワード】

neuron, sensor, fatigue, life style, man-machine interface, human error, ecological system, food web, public nuisance

【授業内容及び授業方法】

授業内容:ヒトの特性(特に感覚系)、疲労、人間の情報処理、環境問題、人間と環境の関わり
授業方法:講義を中心とする。中間にレポート提出。

【授業項目】

Introduction
§1 ヒトの特性
(1) 神経系
(2) 感覚
(3) 疲労
(4) 人間の情報処理
§2 環境
(1) 環境問題総論
(2) 物理・化学的環境
(3) 生物学的環境
(4) 社会環境
§3 人間と環境
(1) 労働環境
(2) human error
(3) 情報と人間　各1回～2回

【教科書】

別途指示する。

【参考書】

別途指示する。
「地球環境白書最新年度版」ダイヤモンド社など

【成績の評価方法と評価項目】

評価方法:レポート(30%)＋試験(70%)(レポートのテーマは別途指示する。なお、試験の代わりとして実践的自主テーマによるレポートも認める。要登録。)
評価項目:知識(40%)＋理解(40%)＋応用力(20%)

【留意事項】

1学期「ライフサイエンス」程度の予備知識が必要。

【参照ホームページアドレス】

http://www.melabq.nagaokaut.ac.jp/lec/
体育・保健センター/講義用HP

EU地域文化論　　講義　2単位　2学期

Introduction to EU Culturel Affairs

【担当教員】

稲垣　文雄

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟507

【授業目的及び達成目標】

近代国民国家の枠を超えた新たな地域統合の道を歩むEU(ヨーロッパ連合)地域の多様性と共通性を文化の視点から考察し、国際的活動を支える素養を培う。

【授業キーワード】

EU。文化。国際理解。

【授業内容及び授業方法】

現代社会の主流となっている西欧民主主義社会の価値観、諸システムを生み出した西ヨーロッパの形成過程を各国史の枠にとらわれず通観する。

【授業項目】

ヨーロッパ文化圏の成立。ヨーロッパの地域的多様性の成因。ヨーロッパ文化圏内の宗教的、言語的状況。言語境界線。中世西ヨーロッパ人の生活とキリスト教。中世西ヨーロッパにおける学問状況。西ヨーロッパ域内のコスモポリタニスムとナショナリスム。大航海時代と西ヨーロッパ社会。

【教科書】

必要に応じてプリントを配布。

【参考書】

『西欧文明の原像』木村尚三郎　講談社学術文庫。『統合と分裂のヨーロッパ』梶田孝道　岩波新書。

【成績の評価方法と評価項目】

授業出席　30%
レポート　70%

スポーツにおける情報と法律　　講義　2単位　2学期
Information Managements and Laws in Sports

【担当教員】

塩野谷 明

【授業目的及び達成目標】

スポーツにおける情報を狭義的および広義的に捉えるとともに、スポーツにおいて情報が果たす役割それによって齎される結果、さらにその結果から派生する問題を法的観点から考えていく。例えば、スキ―開発において種々の情報が果たす役割とそこから生まれてくるスキ―そしてその結果生じる法的問題（例えば製造物責任）といった一連の流れの中で、スポーツと情報および法について考えていく。
その上で、スポーツにおける自己責任について理解させる。

【授業内容及び授業方法】

スポーツに関する情報として、狭義なヒトの身体運動機能に関る情報（処理過程）や広義なメディアからの情報、さらにより専門的な情報等についてその内容を整理し、具体例として、スポーツマテリアルの開発やヒトの運動能力開発とそのパフォーマンスの向上のための情報の扱い方（管理方法）をMIS（情報管理システム）に基いて学習する。さらにそこから派生する具体的問題点、例えば製品化されたスキ―が齎す事故についてPL（製造物責任）法や民法709条の賠償責任、さらにはマイヤー事件（スキ―競技中の事故）のような刑事責任（刑法35条）を情報（広義および狭義の）と関連付けて考えて行く。これらの学習をとおして、情報のもつ様々な側面を考えていく。なお、講義を進める上で必要となるスポーツバイオメカニクスやオペレーションズリサーチ、心理学等の基礎知識を講義の内容に関係付けて学ぶ。

【授業項目】

1. バイオメカニクス的視点からの人間再考
2. 筋系と神経系
3. 呼吸循環系
4. パフォーマンス向上（目的達成）のためのプロセス
5. スポーツと情報処理
6. チャンキングとは
7. 勝つために展開される情報の処理と管理～スポーツのためのMIS
8. 勝つために展開される戦略・戦術～スポーツとOR
9. 製品開発とパフォーマンス向上のための情報
10. パフォーマンス向上と派生する問題
11. スポーツにおける製品開発とPL法
12. スポーツにおける許された危険と賠償問題
13. トピックス：ドーピングと法
14. スポーツにおける自己責任
15. レポート作成

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

「バイオメカニズム」東京大学出版他
「スポーツ法の法理とスポーツ事故問題」早稲田大学出版（塩野谷執筆分担）

【成績の評価方法と評価項目】

各学習項目毎の10分間レポートおよび最終日に作成するレポートによって評価。

【留意事項】

講義内容に会わせた冊子（参考）を作成（配布の予定）。
第2学年での履修は原則として認めない。